

B-168 久能山東照宮の衣服の遺品について、 (第4報)

—— 徳川家伝来の陣羽織について ——

福島大教育、 栗原澄子、

目的、桃山時代から江戸時代の武家衣服には、どのようなものがあつたか、どのような
あつたか、をしらべるため、久能山東照宮博物館に收藏されている徳川家の陣羽織8領の
、形態・縫製について報告する。

方法、前報までの遺品類の調査方法と同様にして、遺品陣羽織8領の実態調査をした。

結果、久能山東照宮博物館收藏の8領の陣羽織類は、他の遺品陣羽織類より身丈・肩巾
などは、比較的小ぶりなものばかりであつたこと。8領の陣羽織類は、いづれも、それぞ
れ異ったデザイン・縫製技法が用いられてあり、数少ない例の着物スリーブ型(現在、洋裁
界で呼んでいる名称)のものなどあつて、被服史・縫製史研究には、非常に貴重な作品
ばかりであつた。

以上。